

# 「観光産業都市・岡崎」を目指して

おがさき  
岡崎市長(愛知県)

うちだ やすひろ  
内田康宏



### はじめに

岡崎市は、愛知県のほぼ中央に位置し、矢作川流域の豊かな緑と清流に抱かれ、西三河の中心都市として成長を続けている。古より交通の要衝として、中世には源



清流・乙川と岡崎城

氏・足利氏の武家文化の重要拠点、近世には東海道により物資・文化が往来し、江戸幕府の礎を築いた徳川家康公の生誕の地・岡崎城の城下町、東海道の宿場町として栄え、13件もの国の指定を受けた文化財建造物をはじめ、数多くの歴史

史上価値の高い建造物にも恵まれ、八丁味噌造りを代表とする伝統産業や山車が巡行する地域固有の祭礼行事等の伝統的な活動が、今なお、市内各所で連綿と継承されている、悠久の歴史と伝統が息づく風格ある都市である。

### 暮らしに息づく 東海道

慶長6年、家康公が開

た江戸幕府によって宿駅制度が定められ、東海道は江戸と京を結ぶ大動脈となった。東海道は岡崎城下へ引き入れられた後、変更が重ねられ、防衛と街道筋の伸長のために曲がりくねり、そのさまは「岡崎城下二十七曲り」と呼ばれ、

町並みの長さも合間って岡崎の城下町・宿場町は大いにぎわった。現在も、その道筋のほとんどをたどることができると歩き継がれ、語り継がれている。

このように東海道は最も市民に親しまれている歴史ある道で、岡崎の中心部を含めて延長約20kmと市域を南東から北西に貫く。現在は幹線道路としての役割は国道1号が担っているが、

ほぼ並行して私鉄が敷設されたことから、街道沿いでは市街地化が進み、その中を通り抜ける東海道は、人々の生活道路として、現在もその往来は活発である。そして、東海道を通じて、人や物、情報が往来し、文化の交流が



矢作神社祭礼山車巡行

盛んに行われてきた結果、さまざまな信仰がもたらされ、各地の習俗・文化が根付いた祭礼等が各地域に起こり、住民らが東海道を舞台に、大切に守り続けてきた祭礼等が毎年行われるなど歴史的な風情を今に伝えている。

## 観光産業都市の創造に向けて、次の100年を見据えたまちづくり

本市は、次の100年を見据えたまちづくりとして、「観光産業都市の創造」を目指している。これは、将来にわたって、安定した経済基盤を築くことができるよう、これまでの「モノづくり」に続く、もう一つの経済の大きな柱として、固有の自然と歴史文化資産を中心とした「観光産業」の育成を



岡崎城下二十七曲りの案内サイン

図っていくものである。

昨年、本市は市制施行100周年を迎えた。この大きな節目に、岡崎固有の歴史、伝統、文化、自然を生かしたまちづくりをこれまでに以上に積極的に推進するため、新たな取り組みとして歴史まちづくり法（正式名称「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」）に基づき「岡崎市歴史的風致維持向上計画」を策定し、この計画が国の認定を受け、本市の歴史まちづくりがスタートした。これにより、これまで単体の「点」として保存してきた文化財をはじめとする多様な歴史文化資産を、これからは主に街道を軸に周辺の市街地も含めた地域のまちづくりと一体的に「面」として整備・活用し、生活環境の向上、地域の活性化および観光の振興につなげ、市域全体の魅力向上を図っていく考えである。

具体的には、本市のシンボルである岡崎城を中心に、近世の宿場町であった岡崎宿・藤川宿を含む旧東海道沿いを加えた「岡崎城下及

び東海道地区」を重点区域として、旧東海道沿いに分布する歴史的建造物等を安全・快適に巡って回れるようにするための道路美装化などの歩行空間や駐車場の整備、そして、誰もが容易に理解できる分かりやすいサインや解説板の整備といった、回遊性を向上させるための事業を総合的かつ一体的に展開していく。

最後に、先人によりはぐくまれ、受け継がれてきた数々の歴史文化資産が、地域の活力を生み出す財産であることを再認識し、まちづくりを通じてその価値や魅力を磨き上げ、このまちに生まれ育った子どもたちが、ふるさと岡崎により大きな愛情と誇りを持ってよう、しっかりと後世に引き継いでまいりたい。

## 東海道 岡崎城下二十七曲り

### 一口メモ

### 徳川家発祥の地

### 東海道の面影を色濃く残す藤川宿、岡崎宿

岡崎市内には、東海道五十三次の内、日本橋から数えて37番目の宿場・藤川宿と38番目の岡崎宿がある。

藤川宿は、三河高原を横断する御油断層の谷から、西の平坦地への出入口にあたり、中世から交通の要地であった。松尾芭蕉が句に詠んだ「むらさき妻」の産地で、宿場の西端には一里塚や十王堂があり、吉良道が分岐していた。

岡崎宿は、徳川家康が生誕した岡崎城の城下町で、矢作川の水運や奥三河からの物資集積で栄えた。徳川家の菩提寺である大樹寺三門から望む岡崎城への眺望は、現在ピストラインと呼ばれ市民や来訪者に親しまれている。



企画協力…全国街道交流会「街道交流首長会」